

イスラ ム第五の柱：巡礼（ハッジ）

3.7

明:ムスリムが 践する第五番目の主要 行 であるハッジの と、そこで行なわれる 々な 礼について。

目:[事崇 行 とその 実践の五ヶ条」](#)とその他の崇 行

より: IslamReligion.com

ED6 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

ハッジ（マッカへの巡礼）とは、イスラ ムの五つの基本的な （五柱）の一つとして定められ、ムスリムが 践することを 付けられている五番目の必 行 です。 にそのような 象は られたとしても、イスラ ムでは巡礼者たちが や修道院へと赴いて 者からのご利益を求めるというわけではなく、または奇 が起きたとされる 所を れるわけでもありません。イスラ ムの巡礼では、 言者アブラハムによって神を崇 する目的で建てられた、サウジアラビアの 都マッカのカアバと呼ばれる‘神の ’を れます。神はその を本 的に 誉高いものとしましたが、それをアブラハムに 付け、また全てのムスリムが礼（サラ）の にその方角を向く崇 の中心地とすることで彼に多大な を与えました。巡礼における 礼は、アブラハムと彼の に遣わされたムハンマド（彼らに神の称 を）が行なった同じ方法で、 在もなお行われ けています。

巡礼は、特 な のある行 としてみなされており、人々に 悔や罪の赦し、また 人的献身行や精神的高 の促 などにおける最高の 会を与えてくれます。イスラ ムにおいて最も神 な都市であるマッカへの巡礼は、 的 肉体的に余裕のある全てのムスリムが一生に一度は行わなければならない 行 です。巡礼の 礼はラマダ ン月の3ヶ月、すなわちイスラ ム 最の月であるズル=ヒッジャ月の8日に始まり、同13日に 了します。ムスリムはマッカに一年に一度集い、人 や民族を越えて全てのムスリムは平等であり、お互いへの 情と思いやりを持たねばならないというイスラ ムの信仰を新たなものとしします。ハッジ

による人々の融和は、以下に引用するマルコム Xの 史的巡礼によっても非常に良く描写されています：

「ジェッダへと向かう空港の中では、何千人もの人々が同じ装いをしていた。例えば王や乞食でもこれだと他の人々と分けがつかないであろう。私の友人はこっそり、とある力者が私たちの近くにいるのを合したが、彼は私と全く同じものを着ていた。このような装いの中、我々は断的に“ラッバイカ！（アッラ フンマ）ラッバイカ！（主よ、あなたの御にせ参じます！）”と声を上げた。行では白い肌もい肌も、茶色のも赤いのも黄色いのも、そして青い瞳や金も、それに加えて私のちぢれた赤毛も一に同じ所に混ざり合っていたのである！皆で同じ神を称え、お互いに同の敬意を表し合っていたのだ

私はそれをに‘白人’を再し始めた。私はその初めて一般に言う‘白人’というものが第一に特定の度や行を示すものであり、肌の色は二次的なものにぎないということを知ったのだ。アメリカにおいていわゆる‘白人’とは、人とその他全ての有色人にする特定の度と行を示す者たちを意味していたのだ。しかしムスリム世界で私が出会った白い肌の人々は、私がこれまでにて来た他のよりもりなく身になってくれた。あの朝は、私の‘白人’というにする画期的な革の始まりだった。

そこには何万人もの巡礼者たちが世界中から集まって来ていた。彼らは青い目をした金の者からい肌のアフリカ人まで、あらゆる人から成されていた。そして我々は皆同じ礼を行っていた。に私たちは私のアメリカでのが白人と非白人のでは起こり得ないと信じさせていたとことの、一と兄弟の精神を体していたのだ

アメリカはイスラムを理解する必要がある。なぜならそれこそが社会から人差をする唯一の宗教であるからだ。私はイスラム世界を旅して回るにあたり、アメリカでは外上白人となされるような人々と出会い、し、更には共に食事をした。しかし彼らの心からはイスラムの教えによって‘白人’の度が取り除かれていたのだ。私はこれまでに一度も、このようなさと真の兄弟が肌の色になく、全ての人によって踏されているのをたことがなかった。」

巡礼はこのように、世界中のムスリムを一つの仲として一体にするのです。年二百万人以上の巡礼者がハッジに参加しますが、なる境からやって来た人々が一つの崇行でまとまることによって、この礼は一の力という役割を果たすのです。一部のイスラム世界では、巡礼を行った者は‘ハッジ’という称号で呼ばれますが、これは宗教的というよりは地域的なとされます。そしてハッジは神の唯一性という信仰の体でもあります。全ての巡礼者たちは唯一の神を崇し、かれの命令にうのです。

巡礼者はマッカへとく路上にある特定のキャラバンの停留地（ミカト）、あるいはそれらの停留地から最も近い地点を通する、イフラムと呼ばれる清な状に入ります。この状においては、（男性の）巡礼者は部に何かをかぶること、爪を切ること、または通常の上着を着用することなどの、日常における特定の‘通常’行が禁じられるようになります。男性は脱衣し、イフラム用の衣服であるい目のない二枚の白い布を身にまといます。これらは全て巡礼と都マッカ、そしてズル＝ヒッジャ月への敬意を幅させます。停留地は五つあり、その内の一つはマッカの北西、エジプト方面にく沿岸の平地にあります。またもう一つは南部のイエメン方面に、そして残る三つはそれぞれ北のマディナ方面と北のナジド地方方面、そしてイラク方面に位置しています。シンプルな身なりは神の御前における全人の平等性、そしてあらゆる俗情の排除を表します。そしてイフラムの状に入った巡礼者たちはマッカに入り、ハッジの始を待ちます。ズル＝ヒッジャの七日目に巡礼者たちは彼らの任をし、八日から十二日までく礼の始においてはマッカの外に位置するアラファ、ムズダリファ、そしてミナといった地をれます。そしてアブラハムが行なった牲を念し、物が生けに捧げられます。そして巡礼者たちはを剃るか短くし、ミナにある特定の石柱に七つの小石を投石し、殿カアバの周りを七周し、サファ山とマルワ山とよばれる小丘のを行と走行を含めて七回の往来（三往半）をします。これらの礼にする史的、また精神的重要性のは、ここではとてもまりきれません。

またムスリムはハッジとはに、“小巡礼”またはウムラを年を通して行います。尚ウムラを遂行しても、ハッジのを果たしたことにはなりません。ウムラはイスラムで付けられている大巡礼ハッジと似ており、巡礼者はハッジとウムラを々に、または混合で行うことができます。ハッジと同、巡礼者たちはイフラムの状に入ることによって

ウムラを 始します。そしてマッカに入って 殿カアバを七周回し、その に可能であれば 石に触れ、その マカ ム イブラ ヒ ム（アブラハムの立 ） の 方で礼 し、ザムザムの泉から き出る水を みます。それからサファ とマルワの を七回行き来し、その に を剃刀で剃り 上げるか、または短く刈ることによってウムラを 了するのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/184>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。